

## 仙人通信 134 シダング山(758 m)

シダング山は松田町の寄(ヤドリギ)地区の西側にあり、杉や檜で覆われたカナ文字の山である。飛鳥時代に寄地区への仏教の宣揚をした『震旦郷上人(仙人)』から名付けられたと由来書にある。寄地区では、この時期『ロウバイ祭り』が行われており、又一昨日降った雪を踏みしめたい想いで寄地区の自然休養村の駐車場からのスタートである。中津川に架かる大寺橋を渡り、道標に従い民家の間を右側に登ると、山の名前の基になったお寺の前を進む。茶畑やみかんの実る軽自動車が登れる程の道を15分程進むと、ロウバイが咲く休憩場でトイレも完備だ。道は1m程のナガラカなコンクリートとなり。10分程で鹿避けの扉である。この扉から、杉の葉の敷き詰められた暗い登山道が始まる。道はなだらかであるが、杉の木立で視界が利かない。数分歩くと小さな露地だ。丹沢湖から厚木方面への高圧線を保守するために作られた線下保障地である。シダング山を北側に捲く様に進むとやがて林道と合流する。ここまで40分程だ。5分程でガイドブックにある小さな沢の水場だ。塔が岳層群の堆積状碎屑岩で、貝の化石や雲母だろ

うかキラキラと光る、手の平サイズの青白い扁平の岩が主体だ。やがて明るい東側となり、杉林から檜林へと変わる。登山道も捲き路から杉や檜の丸太の階段だ。先程と変わり岩は殆ど無く、粒状の火山灰土で歩き易い。花こそ無いが、黄色の花を付けるミツマタやナニワズの白い蕾が目立つようになる。カラタチバナであろうか4mm程の赤い実を沢山付けた50cm前後の丈の木も沢山ある。青空がアセビの林の先に見え、歩き始めてから、1時間25分で3等三角点の山頂である。山頂には小さな祠が祀られ、目の前に白く化粧した富士山が日影山に多くを遮られながらも姿を現した。頂は木も無く、もっことした360度の展望台だ。南には曾我丘陵が・江の島、三浦半島が円弧を描く・雪化粧した大山から表尾根そして北面に塔が岳・鍋割山・雨山だ。10代の頃数名で鍋割山より雨山峠から寄に歩いたが、雨山峠からの沢伝いのコースで迷った事・・・や、過去の山旅を思い出し、悦に入る時間を過ごす事ができた。箱根方面では、大涌谷からだろうか真っすぐに登る雲も観察だ。山頂の標識は秦野峠を示すが、これから向かう宮地山は記載がされていない。他に踏み跡も無い事から進むと、宮地山と書かれた小さな白い標識を発見、安堵して檜林の中の丸太の階段を下った。6分程で秦野峠方面と別れ、シダング山の山頂を左手にして南に進む。相変わらず暗い檜林だ。分岐から10分程で、林道に出る。5分程進むと、先ほどの高圧線の鉄塔である。登山道は、この鉄塔の下から、尾根道となり時折寄の街が梢越しに望める。コースは又もや杉檜の林となり、最初のピークを乗越すと下りがキツクなり、山頂から45分で寄に戻るコースの分岐である。鹿から木々を守る緑の金網に沿って南に捲く様に8分で水檜や櫛の宮地山山頂である。梢越しの為視界は良くない。分岐まで戻り緩やかな下りを25分で寄に戻る、3時間25分(17000歩)の山旅でした。荷物を車に置き、山一面に香しく咲く、『ロウバイ祭り』の会場でのんびりとした1日でした。(h28. 1. 21)

山頂と富士山



塔が岳と鍋割山



ロウバイ

